

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第221号

令和6年(2024)4月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

シャガ

シャガはアヤメによく似た青みを帯びた白い花で、すらっとした葉が冬でも枯れない丈夫な多年草です。名前を知らなくても一度は見かけたことがあるかもしれません。



令和5年4月 小山四丁目で撮影

シャガの花は菖蒲やアイリスと同じような形ですが、大きさは5cmほどで小ぶりです。6枚の花びらのうち大きな3枚の花びらに紫と黄色の斑入りの模様がきれいに入っています。縁に細かいギザギザが入ってフリルのように波打っています。この佇まいが可憐で優しい雰囲気を感じさせます。

花言葉は「反抗」「友人が多い」。葉っぱの形が鋭い剣を思わせ、人が踏み入らない日陰に花を咲かせる姿に因んで「反抗」。

また種を作らないにもかかわらず、根茎(地下を這う根状の茎)が地下を這ってたくさん花を咲かせる性質が「友達が多い」の由来となっています。林試の森公園でも見られます。

(小山四丁目・東 美佐栄)

昨日、災害に対する関心が高まっております。荏原第一連合町会としても継続して取り組んでいきたい事業の一つです。今回は各町会から合わせて30名の皆様にご参加いただきました。

朝8時前に武蔵小山を出発し、見学先に到着したのは10時半。最初にみんなで講義を受けました。実際に災害現場に出動している方のお話は、臨場感あふれる内容で、震災の現状を身近に感じることが出来ました。その後は、震度7の地震体験、煙体験などをしました。煙体験では、「周りが全く見えない」といった声が聞かれました。周りが見えないことで、建物に入った時などあらかじめ避難口を確認することが大切だということや、建物の後は「山梨県立美術館」や「桔梗信玄餅工場」を見学し、帰路に着きました。

(荏原第一地域センター)

皆さんは80200(ハチマルニイマル)・9016(キュウマルイチロク)維持運動をご存じですか。自分の大事な歯を年齢と共に維持していくといった運動です。80歳代で20本、90歳代で16本の健康歯を維持している方を対象とした顕彰式典が、令和5年10月17日に中小企業センターにて開催されました。

東京都品川歯科医師会、東京都荏原歯科医師会の主催の式典は、後援である品川区の森澤区長のご挨拶から始まり、各年齢層の代表に賞状が授与され、参加者の皆様に記念品が配られました。健康歯30本以上維持者は2名、80200達成者は152名、その内の健康歯30本以上維持されている方が4名、32本の方が1名でした。私も80200で26本維持できました。

93歳で30本を維持された方もいらっしゃるれば、何と最高齢の方は101歳で27本の維持と、素晴らしい一言です。

驚いたのは式典終了時、3階から帰路へと向かうほとんどの方は、エレベーターを待たずに階段を降りて進まれたことでした。

歯が丈夫だと、しっかり噛んで食事



地震体験の様子

荏原第一連合町会防災施設見学会が3月1日(金)に実施されました。今回の見学先は「山梨県立防災安全センター」。防災知識の習得及び体験が出来る施設となっています。



荏原第一連合町会
防災施設見学会



80200・9016
維持運動



町会活動紹介

貸し切りバスで初参り (小山二丁目西部町会)

当町会は毎年1月年始の初参りを貸し切りバスで行っています。今年は1月21日(日)に鎌倉、横須賀へ約30名の参加者で行ってまいりました。

当日午前中は戸越八幡神社で境内に上がらせていただいて、1年の安全をご祈禱いただいた後、横須賀に移動して記念艦『三笠』を見学しました。初めて見る方も多くいらっしゃり、貴重な展示品の数々に感嘆の声が上がっていました。



鶴岡八幡宮での参拝写真

午後は鎌倉大仏・鶴岡八幡宮をお参りした後、小町通りを散策しながらお土産を買いました。

バスでは恒例のビンゴに代わって、今年はじゃんけん大会・クイズタイムなどもあり、楽しく過ごしました。バスに揺られて帰る途中、綺麗な夕日を見ることができて、新年を気持ちよく始められました。

今年はコロナ前に例年行っていた行事・イベントを計画しており、4月はくまさん広場で『お花見会』という町会員の集いを行う予定です。これからも協力して、さまざまな行事に参加しやすい、安全・安心・快適なコミュニティづくりをしていきたいと思います。

(小山二丁目西部・北川 一成)

95周年記念同窓会を開催 後地小学校開校



後地小学校は昭和3年、東京府荏原郡後地尋常小学校として創立し、翌年に開校となり、本年度開校95周年を迎えました。

当時は窪地湿潤なる草原の地に校舎が建築され、その土地の俗称をとって、後地小学校と定められたそうです。

そのため地盤が柔らかく、松の杭を埋め込み建築をしました。令和3年の新改築にあたり、何とその杭が500本そのまま掘り出され、昔の人の知恵や、百年でも保つという松の耐久性を実感しました。

そんな後地小学校は、このたび新校舎を迎え新たな一歩を踏み始めました。また後地小学校同窓会については開校55周年の際、14期卒業の直井忠夫さんに

を楽しむことができます。また『囃む』ことは認知症リスクを減らし、元気な老後を過ごせる事につながります。

ぜひ皆さんも自分の大事な歯をしつかり守り、80200・9016を目標に健康歯を維持していきませんか。

(荏原三丁目・池田 晴夫)

近年同窓会参加者も減ってはおりますが、現西川小学校長、小泉副校長をはじめ、歴代校長、各町会長を来賓に迎え、今回も13期生の御年95歳の先輩2名始め、総勢200名近くの同窓生が集まりました。

新校舎の見学に、まるでホテルや大学のキャンパスのようにと心弾み、大いに盛り上がっております。

いよいよ5年後は開校100周年。一人でも多くの同窓生と共に、伝統ある後地小学校と後地の歴史を語っていかねばなりません。

最後に余談ですが、西川校長のご配慮で各学校に贈られた大谷選手からのグローブを展示した途端、皆様目を輝かせ、大谷選手グローブの写真を一心に撮る姿が微笑ましく思いました。

(小山二丁目西部
後地小学校・同窓会会長 吉田 蘭子)